

# 学びの広場

問 教育課 学校教育係 83 7023

生涯學習係  
83(7) 7021

指導要領を見据えた、「校内

る研究)について紹介しまし

「内研究」について紹介します。

卷之三

「伝え合い ちいさな「わかった」を  
積み重ねる授業づくり」

研究主題

寄小学校では昨年度から、児童同士が相互に関わり合いを持ちながら、基礎基本の定着を図る授業づくり、学習環境の整備をめざして校内研究を進めています。

今年度は「あきらめずに、  
向上心を持つて取り組む子」  
「学ぶ楽しさを感じ、主体的に  
学習に取り組む子」を育て  
たい児童像とし、それを具現

化するために授業力向上、基礎学力向上、地域教材・地域の教育力の活用の三部会を設け、研究を推進しています。

授業力向上の取組では、全担任が授業公開し授業改善に努めています。例えば9月に行われた2年生算数の授業では、半具体物の操作を拠り所にして、児童が友だちと対話をしながらひき算の筆算の仕方を考える場を設定しました。クラス全員の児童が自分

業のあり方を授業 半具体物を操作する  
者自身が振り返られるようにするとともに、授業の基本的な流れや教師の立ち位置など全授業者が同じ方向性で学習を進められるよう意識しています。



のための絵本の読み聞かせを行いました。読んでいた  
だいた絵本は「しりとりあそび」「おおきなかぶ」「か  
らすたろう」「ぼくの手わたしの手」「わたしとな  
かよし」の5冊。「おおきなかぶ」では、文字を読むの  
ではなく絵を読むことで、

今までやらざるものから進んで追究するものを理想として、具体的な内容を煮詰めていきたいと考えています。

基礎学力向上の取組では、児童により具体的な学習意欲を持たせようと、朝の時間を使つた「寄小検定」を始めました。国語と算数の基礎の定着を図るテストを全学年で取り組み、「卒業するまでに、1級を合格しよう。」と投げかけています。また、主体的な家庭学習のあり方についても検討して

ころ、「虫沢古道を守る会」の皆さんのが手を挙げてくださいました。6年の総合的な学習の時間に地域の歴史について教えていただき、朝会では「はなじょろ道」についてもお話ししていただきました。児童は地域への関心を大いに深めることができました。

開始が氷期にあたる1万6500年前まで遡る事がわかつてきました。「温暖化に伴つて土器が生み出された」という学説に疑問が投げかけられています)。さて、食料などを得るための

遺跡が足柄平野北辺部にある抛点的ムラとされ、ここで尾崎遺跡と同様な凝灰岩による石器製作を営んでおり相互の関連が注目されるところである」(『山北町史』より)。

人々はドングリ類のアク抜きや肉を煮るための道具として土器を発明します。また、俊敏な動物を仕留めるために石鏃せきそくをつけた弓矢を使用するようになります。こうして旧石器時代からした。す(ところが近年、土器の使用繩文時代へと移行していくので

西日本では照葉樹林の森が広まりました。つまり、ドングリ類・クリ・クルミなどの栄養豊富な木の実がなる森林が出現したのです。そして、ナウマンゾウなどの大型動物にかわって、森にはイノシシやシカなどの中小動物が生息するようになりました。

技術の進歩は縄文人の生活を安定させます。人々は水辺に近い台地や尾根上に堅穴住居と呼ばれる家を建て、集落をつくって定住生活を始めたのです。

実は、当町の城山・根石の両地区には約40000～50000年前の縄文集落があつた事が知られています。城山の渋谷昌宏

松田  
文化財探訪

# 統・町指定文化財とその周辺 その7